

西光寺だより

第二三〇号 令和三年 六月一日発行

今年は何年より梅雨入りが早く、雨の日が続くようであり、そんな時期ではありませんが、雨の中に美しく咲く紫陽花を眺めながら気持ち晴れやかにしていきたいものです。

紫陽花には様々な色がありますが、土壌のpHによって花の色が変わり、一般に「酸性ならば青、アルカリ性ならば赤」になるといわれています。

また花色は開花から日を経るに従って徐々に変化してゆくそうです。長雨の中でも私たちの目を楽しませてくれますね。

そんな色の変わりゆく姿から、いろいろある花言葉の中には「無常」という意味もあるそうです。

この世のすべてのものは常に変化し、変わり続けています。一瞬たりとも同じ状態をとどめることはできません。そんな仏教用語の「諸行無常」を思い出すことでもあります。

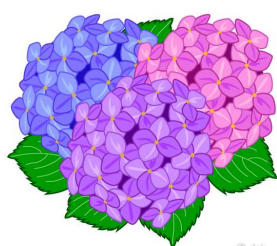
これから先もすべてのものは変わりゆき、色んな事が待ち受けていると思います。雨の中に咲く紫陽花を見て楽しんでくれる人がいるように、しんどい時、つらい時でも独りではなく必ず自分のことを見てくれる人がいることを忘れたくないものであります。

そして、花色が変化するように私たちもいろいろな経験を積みながら豊かな人生を歩みたいと思うことでもあります。

合掌

日ごとに変わる

あじさいの花



© dak

◆先月の報告◆

①先日、ある御住職のご葬儀のご縁をいただきました。

その際に配られたプリントに書かれてあったお言葉を載せたいと思います。ご往生されたご住職は、われわれ僧侶指導に携わっておられた先生でありましたので、葬儀の場でも改めてご指導いただいた文章でありました。

■考えてみましょう

仏教儀式について、平常は無関心なのに、突然の不幸には、寺院の言葉よりも近所や近親者の方々の言うことのほうに迷わされやすいものです。

次のような事は、多くの經典の中にも見当たらず、また仏教とは直接関係のないのですが、葬儀などの儀式の中で、「誰に」「何のために」するのでしょうか。

◇「友引」は悪いと「日」にこだわる

◇ご飯を盛る、茶碗を割る、塩をまく

◇満中陰「四十九日」を三か月にわたらせない

◇一本花、一本線香を立てる

②五月二一日（金）、京都西本願寺にて親鸞聖人御誕生の行事である宗祖降誕会が厳修されました。緊急事態宣言の中、感染対策・検温・消毒など、しっかりと行いながらの法要でありました。

以前のような賑わいはありませんでしたが、特別な空気感を味わいながらのお時間でありました。

そして、来る**2023（令和5）年**には、**親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要**をお迎えいたします。

聖人が御誕生され、浄土真宗のみ教えを私たちに説き示してくださいましたことに感謝して、お勤め致します。

茨木東組におきましても、各寺院から**七名程度**の方々とご一緒に本願寺へ参拝したいと思います。

この慶讃法要のスローガンは「ご縁を慶び、お念仏とともに」。
そのスローガンに込めた思いは次のとおりであります。

私たちは、どんな時に「ご縁」の尊さを思うでしょうか。人生の伴侶としての夫婦の出会い、あるいは学校の親友や会社の仲間、近所の人たちや、医療や行政の支えなど、少し考えただけでも、実に多くの尊い「ご縁」によって支えられていることに気づくでしょう。

こういう横の空間的つながりだけでなく、縦の時間的つながりもあります。たとえば、今の私には、先ず両親という「ご縁」があり、その両親にも、何代も遡れば数え切れないほどの「ご縁」のたまものがあります。また、「袖擦り合うも多生の縁」と言い習わしてきたように、ふと擦れ違うだけでも長い「ご縁」のたまものであったという感性もあります。

浄土真宗の宗祖親鸞聖人も、阿弥陀如来の救いに出あわれた慶びを「遠く宿縁を慶べ」と、「はるか過去からのご縁のたまものへの慶び」を表しておられます。阿弥陀如来の救いとは、「私は、あなた方一人ひとりを、そのままに受け止め、決して見はなさない」との願いが、「お念仏」となってはたらく続けていることです。

今の私たちが、このお念仏の教えに出あうことができたのは、850年前の親鸞聖人ご誕生あつてのことであり、そして800年前に、その教えを明らかにしてくださったからに他なりません。私たちは、その800年にわたる長い伝統と歴史の一員に名を列ねていることの慶びを噛みしめねばなりません。

そして、ともに阿弥陀如来に願われ、阿弥陀如来のお慈悲に包みこまれ、お念仏としてはたらく続けてくださっていることへの感謝と慶びの輪を、さらに広げていきたいものです。

このスローガンの策定意図を基にして、親鸞聖人の命の灯が、人々を救い、教えを広める様子をイメージしてロゴマークを制作しました。親鸞聖人を中心に、手を合わせる人々が一つに集い、共に生きていく姿を、蓮の形で表現しています。



慶讃法要日程		2023(令和5)年
第1期	3月29日(水)~4月 3日(月)	6日間
第2期	4月10日(月)~4月15日(土)	6日間
第3期	4月24日(月)~4月29日(土)	6日間
第4期	5月 6日(土)~5月11日(木)	6日間
第5期	5月16日(火)~5月21日(日)	6日間

浄土真宗本願寺派 白毫山 西光寺
大阪府茨木市西河原一七二二
電話 〇七二一六二二一四七九四
FAX 〇七二一六二二一九二九一
<http://www.osaka-saikouji.net/>